

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション・農林水産業分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 (山梨県南アルプス市)	4.1	4.7 進捗度 ・耕作放棄面積 91% ・農業従事者 104% ・農業所得 121% ・市人口社会増減数 876% ・観光入込客数 108% ・地域資源を活用する民間企業の誘致数 100%	3.5 地域独自の取組 ・南アルプスブランド戦略事業 ・農業次世代人材投資事業 ・中高年の新規就農者支援事業 ・若者世帯新築支援事業 等	4	<p>・荒廃農地のうちS農地(すぐに解消できる農地)の集中的な農地のマッチング活動に取り組んでいる点は評価することができる。他の追随を許さない高付加価値化(加工品開発とブランディング)、移住者を受け入れたコミュニティづくりが今後の課題だと考える。全国的に新規就農者は雇用就農が増えているので、雇用型果樹経営の可能性も検討する必要がある。</p> <p>・各評価指標ともほぼ目標を達成、あるいは大幅に目標値を上回っており、順調に進捗していると評価できる。 なお、評価指標(1)以外は、すでに令和8年度の目標値に達しており、更なる発展が見込まれることなどから、より意欲的な目標値の設定が望まれる。評価指標(2)の農業従事者数については、新規就農者と高齢等による離農者を分けて把握するなどによって、実態をより明確に把握分析した結果を共有し、対策を議論することが望ましい。</p> <p>・農業所得が目標以上に増加していることは素晴らしい。ただし、ふるさと納税は、いつまで続くか分からず、特殊な販売方法であるため、他の販売ルートも確保したい。6次化拠点施設の再建を大いに期待しているが、仮に成功したとしても、「農振法及び農地法に係る協議・許可等の効率化」による成果ではないであろう。</p> <p>・高速交通網整備効果をベースに、農業と観光との融合による交流人口、移住人口、農業就業人口の維持拡大に、着実に取り組んでおり、殆どの指標で目標値を達成し、実績を積み上げている。高齢化に伴う農業従事者の自然減の動向、新規就農者数の増加傾向、離農率の動向を個別に把握され、持続力としての農業従事者の安定的な確保を今後も確実なものとなるよう取り組んでいただきたい。</p>